

## オーストラリア・ブリズベンとの囲碁交流

囲碁三田会副会長 氣賀康夫

月刊「碁ワールド」の2004年9月号に報告の通り、その年の6月に、日本棋院のご紹介を得て、慶応卒業生囲碁愛好家が初めてブリズベン囲碁クラブを訪ね、囲碁を通じての日豪親善を実現して来たのでした。早いものでそれから十年、毎年続いてきたツアーが昨年で第九回を数えるに至りました。そして、今年は十周年でもあり、それを記念してブリズベンの囲碁クラブ側が初めて東京を訪問することになりました。そして、囲碁三田会（その後設立した慶応卒業生の囲碁愛好家組織）が歓迎のイベントを企画することとなりました。碁会前日の4月3日はメンバーを日本棋院市ヶ谷本院にご案内し、懇親対局で腕を磨き、平野理事のご配慮で五階の対局室を見学、幽玄の間で記念撮影までさせていただきました。メンバーにはいい思い出になったことと思います。



幽玄の間での記念撮影

そして、翌4月4日午後2時から、帝国ホテル地下の東京三田倶楽部で、その第十回ブリズベン・オール慶応囲碁親善対局が行われました。来日したのはベル会長、ハーディ幹事ほか4名の合計6名です。そこで、三田会側はこれまで9年の間にブリズベントアに参加したメンバーを中心に集合をかけ、根橋主将、柴山八段、金沢六段を含む12人の対局者を用意し、ゲストに2局ずつ合計12局の対局をセットしました。



左ハーディー、ベル両三段、右根橋主将

左金子六段、右ロイスカンドルさん、  
ハンフリーズさん、トッパーさん

先方の段級位は相手の申し出のとおりとし、これまで慣行としてきた「豪州の段は辛いから、1～2段の調整を行う」という扱いは止めました。手合い割り是一段一子の単純なハンディキャップを使いました。慶応側の相当の苦戦が予想されたのですが、勝敗の結果は6勝6敗と目出度く「打ち分け」になりました。第一局主将戦のベル三段対根橋主将（九段格）の碁は注目の的となり、柴山八段が記録係を勤めたのでここに完全な棋譜が残っています。ご紹介しておきましょう。